

第 28 回合志市地域公共交通協議会

〔日時〕 平成 26 年 3 月 19 日（水）午前 10 時～

〔場所〕 合志市役所 合志庁舎 2 階大会議室

〔出席者〕 藤井委員、古武城委員、関委員、寺本委員、池松委員、藤園委員、西郷委員、塚本委員、野田委員、山野委員、小森田委員、新居委員、吉田委員、富田委員、桑島委員、宮本委員、原委員、今村委員

〔代理出席〕 九州地方整備局熊本河川国道事務所 田中氏、大津警察署 田中氏、合志市社会福祉協議会 宮下氏

〔欠席者〕 宮川委員、吉永委員、小田原委員、重光委員、古川委員、立山委員、溝上委員、金森委員、

〔事務局〕 濱田政策部長、内田企画課長、澤田課長補佐、坂田主査、トトハウス 前田

〔議題〕

報告 ①平成 25 年度合志市地域公共交通計画事業総合支援業務報告について

協議 ①合志市地域公共交通計画（別冊）（案）について

②レターバス及び循環バス須屋線の路線変更について

〔会議の公開・非公開の別〕 公開

内田課長： それでは、挨拶から始めたいと思います。ご起立をよろしく願います。「おはようございます。」よろしくお願いいたします。ただ今から第 28 回合志市地域公共交通協議会を開催させていただきます。はじめに、会長であります副市長の藤井がご挨拶申し上げます。

藤井会長： 改めまして、おはようございます。第 28 回の公共交通協議会ということで、年度末の大変お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。本日はお手元の次第にありますように、報告事項が 1 件あります。協議をしていただく事項が 2 件ということで、この協議会利用アップを目指して模索をしながら会を進めているところですが、私共もできる限りがんばっていきたいと考えておりますので、今後とも皆様方のご協力よろしくお願い申し上げます。本日は最後まで、どうぞよろしくお願い申し上げます。

内田課長： 皆様方のお手元に委員さんの名簿と席次表をお配りしています。名簿の方をご覧になっていただきたいと思います。本日の欠席の方、また代理で出席の方、こちらの方に記載しています。ご紹介に換えさせていただきます。この中で 11 番の熊本電気鉄道株式会社 小田原勝也様、欠席の連絡が入っています。よろしくお願いいたします。

本日は J C N 熊本さんの取材が入っています。ケーブルテレビで明日のニュースで流れるということです。本市におきましては、会議は原則公開としていますので、取材を受けさせていただきました。ご了解をお願いいたします。

それでは、さっそく報告事項に移らせていただきます。
これ以降の進行は会長にお願いをしたいと思います。よろしくお願いします。

藤井会長： それでは次第に沿って進めてまいりたいと思います。3の報告について、事務局より説明をお願いします。

前田： それではお手元の資料に報告書と書いたものだと思いますが、これに基づきまして調査結果等の報告をいたします。

調査は例年どおり、実績と乗り込み調査の結果を示しています。乗り込み調査の結果、それからバス停間の移動の量等は11月の細かい報告をいたしましたので、その他新しい調査結果、要点のみについて、ご説明をしたいと思います。

20ページを開けていただきますと、例年の調査に加えまして、今年はレターバスに乗るお客さんにつきまして、特別に定期券の利用でありますとか、いつ頃から乗り始めたかというようなことを聞いています。特に22ページを見ていただきたいんですが、レターバスにいつ頃から乗り始めましたかということで、時期別に聞いたものがこの表です。文章にもありますように、1年以内に乗り始めました、乗り始めて1年以内ですという方が37.3%ありました。年齢別に見ると若い人の方が多いんですが、全体に見ると37.3%の方が1年以内に乗っているということです。今後の事業の目的として、年10%程度は新しい人がお客さんとして増えるということを掲げていますが、今年の時点で37.3%ということですので、まだ10%を大きく上回っておりまして、今後も新規のお客さんが開拓できていくだろうということがこれである程度裏付けられたものです。

次はページの24ページを開けていただきまして、ここも特に将来の定期券とか回数券の導入について、今乗っているお客さんの意向を聞いたものです。真ん中少し上の9 レターバス専用定期券の利用可能性というのがありますが、この真ん中の円グラフにありますように、青いところが定期券は購入しないという人の割合です。だいたい70%の方が定期券は使いませんと答えられました。それからその上の方、1番上のグラフを見ていただくと、青いところが多くなっていますけど、これは専用の回数券があった場合利用しますかと

いうふうに聞いたものです。この二つを見ていただきますと、回数券も定期券も使いませんという人が圧倒的に多かったということです。現時点で 100 円のバスが走っていますので、定期券を買って失くしたら困るとか、回数券も面倒とかいうことで、現状では 100 円のワンコインのほうが便利ですよというお答えが圧倒的に多かったということです。この 2 点について、今年特に計画の立案のために調査した結果です。

それから少し飛びますけれども、63 ページを見ていただけますでしょうか。現在、レターバスのコースが一部しかかかっていません須屋地区につきまして、バスの利用等、あるいは今買い物等の行動の実態を把握しておこうということで、調査をしたものです。これについて、説明をいたします。63 ページの下の図にありますように、須屋地区、これは新開団地も含んでいますけれども、レターバスのコースから外れたところが多くなっていますので、この方について、コミュニティの会合とか老人会の会合にお集まりいただいた方に、アンケート調査をいたしました。次のページに概略が載っています。属性が乗っておりますけれども、だいたい 60 代以上の方、年配の方が多いです。男性の方が少し多めに答えておられます。実際のバスの利用のお客さんは女性が多いんですが、少しここがずれておりますが、10 地区ごとに集計した結果をご報告いたします。

結果ですけれども、65 ページから 5 つの質問をしております、まず、買い物などで出かける頻度を聞きました。真ん中に表があります。表は上下 2 段になっておりまして、下半分がパーセンテージです。上半分が実数です。下半分のパーセンテージを見ていただきまして、まず買い物のところで、ほぼ毎日出かけるという方が 25.4%、週に 2, 3 度という方が 43.8%ですので、ほぼ 7 割の方は週に 2, 3 回は出かけておられるということです。これはバスに乗ったということではなくて、バスがあってもなくても、この頻度で週にこれだけ出かけるという結果です。病院の方に行きますと、月に 2, 3 回とか月に 1 回程度という形になります。

それから 66 ページを見ていただきまして、今も外出頻度につきまして、運転免許を持っているか、いないかを見たものです。表の下半分を見ていただきますと、パーセンテージが載っております、買い物ですと、免許ありの方はほぼ毎日 30%、免許なしの方は 18.9%ですので、やはり車がある人の方が多く毎日出て行くということです。ただし、週 2, 3 回までを入れますと、合わせると両方

とも同じくらいの割合になりますので、車があろうとなかろうと、7割くらいの人は週に2, 3回以上は買い物に出ると、ただし、車があればやや毎日行く人が多くなるという結果になっています。

それから次のページ、行く目的地ですけれども、67 ページの表、パーセンテージを見ていただきますと、買い物については55.2%が須屋地区です。それからちょっと離れて真ん中当たり、熊本市が33.2%です。熊本市に隣接していますので、熊本市の割合も3割を超えています。病院につきましては、須屋地区が34.1%で、熊本市が48.7%です。病院については、熊本市に行く人が多くなっています。これも地理的なことを考えれば納得がいくと思います。69 ページに更に地理的なものを細かく見るために、先ほど申しました10の地区ごとに集計を試みました。その中で、薄いピンク色をかけているところがその地区に行くと言った人が5割を超えたところを示しています。だいたいどの地区におきましても、須屋地区については買い物や市役所・支所、これは当然ですけれども、行くのは5割以上は須屋地区に行っています。熊本市の縦の欄を見ていただきますと、堀川地区とか新開、それから榎ノ本、西須屋団地、東須屋、こういったところで買い物ないし病院で熊本市に行く人が5割を超えています。それから新開につきましては、買い物で光の森に行く人が50%を超えました。ここも車で生活する比較的若い方が住んでおられるので、こういう結果になるのもうなずけるところだろうと思っています。基本的にはどの地区も須屋地区と隣接する熊本市の方で用事が済んでいるというのが特徴です。

次に70 ページを見ていただきまして、主な外出手段、交通手段について、一番上に表を載せています。パーセンテージを見ていただきますと、買い物、病院、温泉につきましては50%以上の方がマイカー、市役所・支所についても49.9%ですので、マイカー依存率が高いというのがわかります。それから、意外とバイク・自転車、これは主に自転車と思いますが、自転車を利用されている方も10%前後おられるということがわかりました。

下半分は循環バスの利用状況ですが、全部で413人の方に回答していただいた中で、14人の方が現状、循環バス須屋コースを利用しているということで、34人は以前は利用していたが今はしていないという回答がありました。後でこの方だけの集計も報告いたします。14人というのは、ほぼヘビーに今利用している数というのと一致するところですね。

71 ページの下半分 5 番ですけれども、循環バスを利用するための改善点、こういうことを改善してくれたら乗りますよというその条件を聞いたものです。下の方に横長の表がありますが、改善点というか今の問題点として、行きたいところを通らないというのが 30.7% で一番多くなりました。あとは行き先がわからないとかバス停が遠いとかいうことで、その辺の不便を感じておられるようです。

そして、72 ページをご覧くださいまして、今言った問題点が改善されたという条件で、循環バスをどの程度利用しますかという聞き方をしました。行き先別に頻度を聞いたものです。下半分のパーセンテージを見ていただきますと、薄い色が付いたところが 2 箇所ありますけれど、週に 2, 3 回以上割と頻度をたくさん乗りますよという人の割合が 10%を超えたところを色を付けています。行き先としては、ゆめタウン光の森とその周辺、それから老人憩の家とユウパレス弁天というのが 10%を超えました。20%弱あるということで、循環バスは依然として温泉行きと光の森の方に行く買い物ですね、そういった需要があるということがこれでわかりました。同じものを今度は地区別に見たものが、74 ページの表を見ていただけますか。色の濃い、薄いがありますが、薄い方は週に 2, 3 回以上の頻度で乗ると答えた人の割合が 10%を超えたところを示しています。買い物、温泉につきましてはだいたい 10%をどこでも越えていますが、右の方のちょっと色の濃いところ、これは条件を改善されても当分はバスでそこに行くことはありませんと答えた人の割合です。40%以上に網掛けをしていますけれども、上須屋、新開、榎ノ本、こういったところで当面利用しませんというふうにあります。上須屋地区については、買い物等についても高い割合で当面利用しないとありますが、地元にはスーパー等もありますので、そういったことを反映しているものと思います。新開地区につきましても今現在、光の森にたくさん行っているようです。車の生活ができる方が多いということだろうと思いますが、それを反映して当面は利用しないというような結果が出ています。

少し飛ばしまして、80 ページに現在循環バスを利用している方、それからかつて利用していた今はもうしていないという方のアンケート結果を載せています。表の 3-12 買い物などで出かける頻度です。これは大きく上半分のかたまりが現在利用している 14 名、下半分がかつて利用していたという 34 名の数字です。上の現在利用している人の割合を見ますと、ほぼ毎日という人が 28.6%、それか

ら下の方で、かつてバスを利用していたという方では週2, 3回買い物に行きますというのが58.8%ということで、バスに乗らなくなったからということではないかもしれませんが、週に2, 3回程度買い物に行っている人の割合が多くなっています。それから、主な行き先・目的地がその下の表に載っていますけれども、現在バスを利用している人は、買い物のところを見ていただきますと78.6%という数字がありますが、買い物については須屋地区の割合が圧倒的に高くなっています。下の方でかつて利用したという方も61.8%ですけれども、若干現在利用している人よりも少なくなっていますが、いずれにしても須屋地区の利用の割合が非常に高くなっているということです。さきほど現在の集計では6割程度でしたけれどもここはもう7割になっていますので、やはり今現在、循環バスに頼ってる方というのは地元の行動でバスを利用している、地元依存して生活している人が多いということが言えるかと思います。

それから81ページの上の表は交通手段の違いを示しています。ここで顕著に出ていまして、まず大きく上のかたまりですけれども、現在循環バスを利用している方に聞きました。買い物は35.7%がマイカー、バイク・自転車が14.3%とあります。その2段下に温泉というところがありますが、これをずっと右に見ていただきますと、循環バスが35.7%で、やはり現在利用していますので温泉については特に高い値で循環バスの利用があるということがわかります。次は下のかたまりで、かつてバスを利用していた人のところを見ますと、温泉のところを見ていただきますと、55.9%という値になっていますけれども、かつてバスで温泉に行っていた人もバスに乗らなくなって逆にマイカーに戻ってしまった、あるいはマイカーで行く人に乗せてもらっているというような状況になっているようです。買い物の欄を見ていただきますと、かつて利用していた人ですが、マイカーの17.6パーセントに対して、バイク・自転車が35.3%と高い値になっていますので、バスに乗らなくなった、バスに乗れなくなったという方は買い物については自転車にシフトしているのではないかということが伺えます。

次はバスの改善点です。現在利用している人、かつて利用していた人を上下で比べることができますけれども、特に下の段、かつて利用していた人がどこに問題点を感じているかということですけれども、行きたいところを通らない、時間帯が悪い、運行する日が悪いというのが3割、あるいはそれを超えていますので、今利用して

いる人に比べると、パーセンテージが高くなっています。こういうところに不便を感じてバスを離れたということが伺えます。

次に 82 ページ、最後ですけれども、バスの問題点が改善されたところで、どれくらいの頻度でバスに乗って出かけるかということですから、やはり買い物と温泉が多いんですけれども、特に今現在、バスを利用している人は温泉に週 2, 3 回行きますという方が 35.7%、週 1 回が 14.3%ということで、今利用している方はやはり温泉に行く目的でバスを利用しておられる。それからかつて利用していたという方は、温泉、買い物等があるんですけれども、当面はバスでは行かないという回答も多くなっています。ただし、一般の方に比べると、一般の方は 5 割くらいは当面バスは利用しませんということですから、今利用している人、あるいはかつて利用していた人は当面利用しないというのは 20%切っていますので、バスの利便性はある程度評価しておられるし、必要と感じておられるということがこれでわかったということです。こういう結果を用いて次年度以降の検討の材料にしたいということで、調査した結果です。以上です。

藤井会長： ただ今、アンケート調査を踏まえていろんな角度から分析してもらっているわけですが、ご意見、ご質問等ありませんでしょうか。西郷さん、先ほど須屋地区のアンケートの報告もありましたが、何かございませんか。

西郷委員： レターバス、満員はいいんですけれども、遅れるという。ここに到着したのが 10 時 5 分で、遅れて申し訳ありません。例えばこの調査について、老人会といわれましたが、私は須屋の長寿会という 80 名くらいの団体で役員をしていますが、うちではアンケートをとられたということはありません。堀川とか他にもありますので、そういったところと違えたのではないかと思います。一番問題なのは、須屋区で調べても、結局マイカーの方がここに出ているとおり多くて、必要ないという方が多いのも事実です。しかし、絶対高齢者のためにこれは残しておかなければなりませんし、本当に弱者、弱い方のために考えると、その人たちの利便性を一緒に考えていかないと、見直すだけでは問題があるのかなぁと思っていました。調査は期待通りにはいかなかったようですけれども、これからの検討課題かなぁと思っています。

藤井会長： ありがとうございます。

内田課長： 今の件につきまして、お答えします。須屋区はサロンの方で調査

をさせていただきました。見直しという形で話をしていますが、住民の方が利用しやすいようにするための見直しというふうに考えていただければと思います。アンケートの報告の中で、どういった点に不満を持っていらっしゃるかという点も明らかになってこともありますので、そのような方向から見て、地元の使いやすいような形に見直しができればと考えています。

西郷委員： 私も地区の皆さんといろいろ話をしまして、今の循環バスについて、確かに温泉に行くのには便利なんです。最後は再春荘になっていますよね。再春荘に行く方はおられません。途中ではおられると思いますが。須屋区の方は電車に乗れば再春荘ですし。ただこれが、再春荘から先。たとえば、光の森とか、ヴィーブルまで伸ばしていただければありがたいなあと考えている方がたくさんいらっしゃると思います。以上です。

藤井会長： ただ今のはご意見として承っておけばよろしいですか。

西郷委員： はい。

内田課長： 見直しの際の参考としてさせていただきたいと思います。

藤井会長： 他にはございませんでしょうか。よろしいでしょうか。それでは報告事項については、これで閉じたいと思います。それでは、協議事項に入ります。合志市地域公共交通計画案について、担当の方から説明いたします。

坂田主査： 資料の方は、右肩にパブリックコメント用資料ということで、「合志市地域公共交通計画（別冊）素案」です。

これは、前回 27 回の協議会におきまして承認いただきました素案です。これを平成 25 年 12 月 17 日から平成 26 年 1 月 31 日まで、約 1 ヶ月半の期間でパブリックコメントを実施しました。市のホームページ及び広報におきましてパブリックコメントの周知を行い、市のホームページ、合志庁舎、西合志庁舎、両支所の方でこの素案を掲示しまして、意見の募集を行いました。その結果、素案に関する意見はありませんでした。本素案の内容につきましては、前回の協議会で承認をいただいておりますので、この内容で正式に計画として策定したいと思いますので、皆様方のご承認をよろしく願いいたします。以上です。

藤井会長： いかがでございますでしょうか。

（会長、所要のため中座）

濱田部長： 今少し、会長が席を外しております。この合志市地域公共交通計画（素案）につきましては、一度お諮りして決定していただい

るところですが、これでよろしいでしょうか。ありがとうございます。それでは、次にレターバス及び循環バス須屋線の路線変更について、説明をお願いします。

坂田主査： 資料は、1枚紙です。上に「レターバス及び循環バス須屋線ルート変更（案）」と書いています。現在、御代志駅前の交差点改良を行っています。3月下旬が供用開始だというので、こちらの方には情報が入っています。図をご覧くださいませでしょうか。上の方から黒の線があると思いますが、既存路線で、それから西合志郵便局前を通って御代志駅から再春荘の方に曲がるというのが、現在のレターバス及び循環バス須屋線のルートになっています。これが今後、道路が変更になりますので、この赤い線の部分、そちらの方にルートを変更させていただきたいと思います。今回、この新規ルートに関して承認をいただきまして、今後警察署及び道路管理者等との協議を行いまして、運輸支局様の方へ路線変更の申請を行いたいと思っています。また、今後の手続きや書類の内容については、事務局に一任していただければと考えています。このルートでご承認をいただきたいと思います。以上です。

藤井会長： 御代志の交差点改良、今工事が進んでいます。現在は再春荘の方から来ますと、御代志駅の前から左折をして西合志庁舎の方に行くという青い路線を、交差点が出来上がりましたらこの赤の路線に変更したいという提案です。よろしいでしょうか。大津警察署の田中さん、この案でよろしいでしょうか。ご意見、アドバイスがあればいただければと思いますが。

田中氏： 交差点の改良ですので、交差点自体、バスあたり隅切りもできて回りやすくなる、右折とか左折もしやすくなると思います。あとは、西合志郵便局あたりの利用者の方の利便性とか、私はわかりませんが、ルートの的には問題ないかと思います。

藤井会長： ありがとうございます。大津署の方からも問題はないだろうということでしたので、これでよろしいでしょうか。これはご承認いただいたということで、先に進めさせていただきます。5のその他に入ります。先ほど西郷さんからも時間の問題が出ましたけれども、今実証実験ということでバスロケーションシステムを考えておりますので、事務局の方から説明をさせます。

坂田主査： 資料は、「合志市簡易型バスロケーションシステム実証実験」という資料です。1枚めくっていただきまして、まずバスロケーションシステム、バスに位置が今どこにあるかとか、あとどれくらいでバ

スが来るというのを情報発信するシステムです。今、レターバスの課題としましては、先ほど西郷委員が言われました遅延問題というものがありまして、利用者の皆様から不便だという意見が多々出ています。前回の協議会の中で、26年度事業計画案としましてバスロケーションシステムの導入という形でご説明をさせていただきました。先に行われました市議会の方で、このバスロケーションシステムの26年度予算が通りました。菊陽町さんの方がまだ議会も終わっていないので正式に発表はできませんが、26年度熊本県の補助金を活用して菊陽町さんと共同でバスロケーションシステムの導入を計画しているところです。今回実証実験を実施しまして、利用者の方が実際どのような情報が欲しいか、あと何分で来るという情報がいいのか、現在どこをバスが走っているのかとかいろいろな見せ方がありますが、どういう見せ方がいいのか、アンケート調査を実施しまして、今後のシステム開発の参考にしたいと考えているところです。

それでは、資料の説明に入ります。実験の目的です。この簡易型のバスロケーションシステムの実証実験を行いまして、このシステムの技術的課題の抽出や解決策の検討、及び市民の意識調査、アンケート調査を実施、分析し、コミュニティバスの利用者が使いやすいバスロケーションシステムを導入したいということです。実験の概要としまして、事業名は、「バスロケーションシステム導入に関する市民意識等調査事業」で、これは委託事業として実施しています。受託者は、「さいばーとれいん」さん、これは須屋の方に事業所を構えておられます個人で起業されているところです。委託期間は、平成26年1月31日から3月25日までで、まだ委託期間中です。本日はヴィーブルの方で、アンケート調査を実施している状況です。

概要の(1)としまして、このバスロケーションシステムが動くかどうかというのが、大きな一つ目です。これも現在、ヴィーブルの受付窓口の方で、あと何分で来ますよというような見せ方をやっているところです。今回は、レターバスだけに設置しています。

(2)で、バスロケーションシステムに関する市民意識調査とその分析です。アンケート調査の方を今、実施しています。本日はヴィーブルの窓口近くでアンケート調査をやっています。あと、実際レターバスに平日と休日、乗り込んで聞き取り調査の方を行っています。

次のページです。このシステムがどのような形でバス位置の情報

を出しているかという、簡易型とはどのようなものかというところ
です。絵をみていただければわかるように、レターバスにスマート
フォンを載せております。それで1分間隔で緯度、経度のGPSデ
ータを発信しています。コンピュータの方でその位置情報を分析し
まして、ヴィーブルの前のタブレット、それと私の方のパソコン、
熊本電鉄さんのパソコンでもこの位置情報を地図上で出るような見
せ方をしています。下にありますが、ヴィーブルの受付窓口にあ
るロケーション端末です。次のページでもっと大きく見せています。
上の方がヴィーブルの窓口のカウンターに出ているロケーションシ
ステムです。あと50分でバスが来ますと。これは左回りの表示です。
その下、企画課のパソコンから見れるロケーションシステム、バス
位置確認用です。左回りと右回りが1画面で、今どこを走っている
かというようなことが地図上に表示されるというシステムです。
次のページです。これが大きく見せています。右回りの方の表示で
す。あと10分でバスが来ますというところ、それと5分を切ります
と、まもなくバスが来ますという見せ方になります。

それから次のページ、これがアンケート調査の内容です。最初に
属性を聞いて、次のページの問い9、10あたりで、どのような見せ
方がいいとかいうようなことを聞いていますので、ここの結果を
今後のバスロケーションシステムの構築の参考にさせていただき
たいと考えています。

一番最後のページです。これが先日3月8日の熊日新聞に出まし
た今回の実証実験の記事です。一番下のところですが、2行目に事
業費は18万円と書いてありますが、実際このシステムの構築に関し
ましては、さいばーとれいんさんが独自で開発されたものを無料で
うちの方で使わせていただいております。さいばーとれいんさんが
開発しましたシステムに関しては動くかどうかというのを、さいば
ーとれいんさんは実施したかったという思いと、うちが来年導入を
考えているのでどういう見せ方が一番いいのかというような、実際
使って、アンケート、市民の意見を取り入れるならといううちの思
いが合致しまして、今回実証実験が可能になったというところです。
この18万円に関しましては、アンケート調査費用とか機器類とか
そういう部分の費用であって、実際システム構築費はもう少し費用
がかかるというところです。また、この調査結果については、次回
以降の協議会の中で報告をさせていただきたいと思います。以上で
す。

藤井会長： ロケーションシステムについて、ただ今、ご説明申し上げました。利用される側からすれば、どのくらい待たなければならないかがわからないと、これが一番要望の多いところでありますので、こういうシステムの実証実験を行っているところですが、これについて、ご意見、ご質問ございませんでしょうか。

塚本委員： このバスロケ、簡易型で設置も簡単で、非常にいいものだと思います。ただ、バスの中に表示がしてないんですよ。今、実証実験やってますという紙を。たぶん、右回りだけしか表示がしてなかったと思います。両方貼っていただきたいなということと、どこでアンケートやっているのかも全然書いてなかったのも、せっかくやってるんですから、もう少し丁寧にやっていただきたいなということです。

坂田主査： ご意見、ありがとうございます。

藤井会長： ありがとうございます。今言われたように対応していきたいと思います。他にはございませんでしょうか。

西郷委員： 私は、これがあることは大変便利でいいと思うんですけども、時刻表どおりに動いていないことに問題があると思います。この時刻表をもう一度見なおす、そうすると安心してちゃんと時刻表どおりにきていただく、そうなればこれも本当は必要ないです。その辺も含めて、ご検討いただければありがたいと思います。

坂田主査： 時刻表につきましては、今後見直しを考えています。実情にあった時刻表にするような見直しを考えています。このバスロケーションシステムで、位置情報がデータで集まりますので、いつもこの時間帯はここで渋滞しているということがわかります。そこを参考にして実情にあった時刻表の見直しを27年度くらいに取り組んでいきたいと考えています。

藤井会長： 他にはございませんでしょうか。それでは、今こういう実証実験を行っていると、また結果については次の会議でご報告いたしますということで、ご了解いただきたいと思います。少し時間が過ぎます。その他にご意見、ご質問ございませんでしょうか。

塚本委員： 先ほど熊本市で急行バスの実証実験がありました。私もこの実験には参加しまして、スムーズに走るかどうかということで、周りのマイカーの方が道を譲ってくれるとか、スムーズにバスが走る環境が整うかという実験を1ヶ月ほど、クレアの方から交通センターまでバスを朝だけ片道で走らせています。私も実験に参加してバスに乗り込みましたら、最初の頃はなかなか道を空けてくれなかったで

す。バスの乗客は思ったより伸びなかったんですが、時間は1分とか2分とか、最大でも5、6分遅れでいたい交通センターには着いています。最後の方は、バスは第2通行帯を走るんですが、前の車が第1通行帯に車線変更しまして譲ってくれるという場面がちょくちょく見られるようになりました。レターバスも渋滞で遅れてますということで、時刻表どおりに行かないという問題になっていますけど、このあたり他のマイカーの方とか道を譲っていないというのが気になるところです。信号のないところからレターバスが右折をしたりとかします。反対側の車線にも影響がありますので、向こうの車も止まってくれないとなかなか行けないとか、そういうところで結構遅れているというのがありますので、できれば周りのマイカーの方にバスが時刻表どおりに走れるようにマナーアップということでやっていただけないかという意見です。

内田課長： 重要なことだと思いますので、熊本市さんがされたことを参考に、こちらでも働きかけを考えてみたいと思います。

藤井会長： このような方向で取り組ませていただきたいと思います。他にはございませんでしょうか。何もないようですので、本日はご協力ありがとうございました。

内田課長： 最後に皆様方にお礼を申し上げたいと思います。この公共交通協議会の委員さんの任期は2年でありまして、この3月31日で任期が満了ということになります。委員の皆様には任期中大変お世話になりました。ありがとうございました。様々な事案に対するご審議、ご意見、ご提案いただきまして、おかげをもちましてコミュニティ交通も順調に運行を続けているという状況です。

来年度からの委員さんにつきましては、委員の構成を若干変えたいと思っています。市には自治基本条例というものがありまして、市民の方の市政への参画を呼びかけておりますが、このような審議会にも公募の委員さんを入れて運営をしているという状況であります。現在この公共交通協議会には公募の委員さんがおられないということで、来年度からは公募の委員さんを3名程度加えたいと考えています。皆様方にまた委員さんとしてお願いをする場合は、所属の代表、あるいは所属長のうちの方からお願いの文書を差し上げたいと思いますので、今後ともよろしく願いいたします。大変ありがとうございました。

これで閉会とさせていただきたいと思います。最後も挨拶で終わりたいと思います。お疲れ様でした。